

土・まち・みどり

通信第2号

2000. 10. 1

発行 土とみどりを守る会

連絡先 3718-8558(柳島)

CONTENTS ◆夏のつどいイベントレポート◆2000年新春のつどい報告◆会からのお知らせ◆土地の動き

夏のつどい 藍の生葉染め

イベントレポート

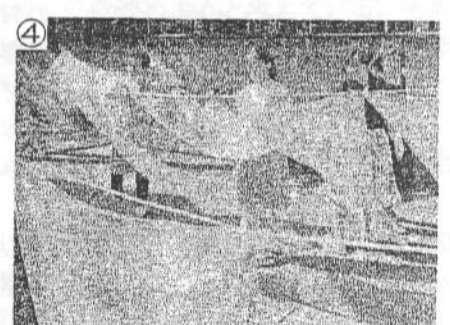
去る8月28日(月)、土とみどりを守る会主催のイベント「夏のつどい 藍の生葉染め」が開かれました。去年の藍染めでは、空き地で育てた藍をみんなで摘むところから始めたのですが、今年は空き地の藍も夏バテ気味で、結局メンバーの杉村さんが福島の畑で育てた新鮮な葉をどっさりもってきてくれました。

お昼過ぎ、会場となった奥沢東地区会館の会議室には、子ども4人を含む29名の方が集まり、藍の生葉の山を前にして作り方の説明を受けた後、さっそく藍染めにとりかかりました。

枝から葉だけを摘み取ると、次は洗濯ネットに葉を入れて、水の中で液をもみ出します。手が染まらないようにゴム手袋をはめての作業ですが、意外と力のいる仕事に、夢中になるといつの間にか手袋の中の手まで藍に染まってしまいました。

液ができると、絹のスカーフと木綿のハンカチをひもで縛ったり、板ではさんだり、思い思いに模様を作っていきます。とくにがんばったのは、2回目の参加になる子どもたち。見事なしぼりの出来に、みんなからも歓声と拍手が送られました。

暑い一日でしたが、染めあがった作品は、どれも鮮やかで涼しげなブルーになりました。澄みきった秋の空にもよく似合いそうです。空色のスカーフやバンダナをつけて歩く奥沢人の姿を、皆さんももう何度かお見かけしているかも知れませんね。



①葉だけを摘み取って袋に入れ、カー杯もんで藍の液を押し出す ②布地を絞ったり巻いたり、模様をつける
③藍の液につけて染める ④水洗いして干すと色が定着する



参加者の声

- ・スカーフをかけて集まりに出かけたら、とても素晴らしい色とほめられました。
- ・自分に似合う色に染め上がって満足。秋に出かけるのが待ち遠しい。
- ・夫が「いい色だね」と感心していました。
- ・こんな楽しい催しをまた来年もぜひ開いてください。

土とみどりを守る会・新春のつどい



「奥沢の歴史・まち・暮らしを語る」の話し合いから

平成12年1月10日に奥沢東地区会館で新春のつどいを開きました。参加者39名で和やかな内にも活発な意見交換と交流があり有意義な一日でした。まとめに手取り遅くなりましたが、このつどいのあらましをご報告します。

当日の総合司会の近藤さんから、「新春のつどい」のように多くの方々の参加をいただきありがとうございました。この会は奥沢地区の住み良い環境とまちの緑を守る運動をすすめています。そのためには、なによりも人と人とのつながりが大切だと思っています。この会を通じて地域の人々がお互いに知り合いそれが住環境を考えるきっかけになり、身近な生活空間に自然の豊かさを取り戻すことに関心を持っていただける方が増えていくことを願っています」との挨拶でスタートしました。

続いて会の代表の平野さんから「私はこのまちに生まれ育ちました。時のながれででしょうか大きな住宅が解体されて小さな家が次々に建てられています。住人が増えることは歓迎ですが、土も緑も急速に減っています。安心して住み続けられるまちにしたい。そのためには人と人をつなげコミュニケーションを深めることが土台づくだと思います。自然が豊かに残るまちを次の世代に伝えたい」と土とみどりを守る会の目的に触れる挨拶がありました。

第一部：郷土史家・松田さんのお話

松田さんは『世田谷街並み・保存再生の会』『まちづくり広場』『ぶりっじ世田谷』などの運動をとおして街づくりの研究と実践を広範囲になさっている方です。この日はテーマを「住宅」と「街並み」の二点に絞って講演していただきました。

旧来の日本家屋は、大黒柱を中心に土間、囲炉裏、外廊下、濡れ縁を配置した「田の字型」になっている家族中心の間取りだった。関東大震災から昭和の初期にかけて都心に通勤するサラリーマン、洋行帰りのインテリ、海軍の上級士官の方々が奥沢に和洋折衷の近代住宅を建てるようになった。東側に門・玄関があり南側に応接間と来客を想定した間取りに変化してきたが、しばらくすると「客間には日当たりの良いところを」から「客より家族が快適に」と考えるようになり間取りも大きく変化した。こんなところにも住宅に対する人々の考え方の変遷が見て取れる。

住宅の洋風化につれて庭木も門かぶりの松に換えヒマラヤ杉や棕櫚（シュロ）の木が植えられるようになった。石黒さんのところではヒマラヤ杉が、三浦さんのところでは棕櫚の木が三本植えられている。しかしながら現在ではこのような近代住宅が急速に少なくなっている。

街並み保存ということでは、建物そのものの保存も大切だがこれはかなり難しい。新しい住宅が建つたびに昔

の街並みや緑は消えていく。それでも新しい家を建てる人々が、少しでも周辺との調和を保つように考えてくれれば街並みを保つことは出来る。

次に生垣と街並みに付いてだが、成城には昭和2年から「生垣協定」がある。どの家も「必ず生垣をつくる」と申し合わせているところががすばらしい。戦後になってブロック塀が普及したが、昔のように生垣をつくるかフェンスに蔦をからませるなどして緑を確保するように呼びかけている。

道路と敷地の境も街並みには大切なポイントとなる。同じ材料を使ってもデザインを変えるなどの工夫が街並みを美しくする。成城では土留めの大谷石の積み方に変化を持たせたり、その上の生垣の木の種類を好みのものにして300軒がみなちがう垣根になっている。このように自分の家に個性を持たせるような「こだわり」を持つことで美しい街並みが生まれる。

奥沢では多摩川の「たま石」に注目してほしい。戦前には門柱や家の土台に良く使われていて、三浦さんの門柱や持田さんの家の塀の土台に今でもそれが見られる。

「たま石」は住宅だけでなく、古くは江戸城築城のための埋め立てに、明治になってからは鉄道の敷石、横浜港では網の輸出船のバラストにまで使われた。

戦後になって、オリンピック工事などで東名高速道路やさまざまな土木工事が行われて、多摩川の石と砂利を取り尽くしてしまった。そのために河は浄化機能を失ってしまった。経済最優先の開発が多摩川ばかりでなく多くの河川を台無しにした。今ではもう「たま石」は手に入らなくなった。

家を解体する時に出てくる「たま石」を地方自治体が保管し、それを建材として使いたい人が活用できるような方策があってもいいのではないかな。

世田谷は七つの沢から成っていて美しい地形をなしている。そのため「沢」と「田」と「谷」の字のつく地名がたくさんある。街づくりは、土と緑だけではなく大きな景観や眺めも大切に保存したい。

奥沢の特徴としては街路樹が無いことが挙げられる。街路樹のある街づくりに触れてみると、最近では「花みずき」が異常なまでに多くなっている。その理由を調べると「見た目に美しく管理しやすい」ということであつた。街路樹の大切な役割は空気の浄化作用にあるので、常緑樹のほうが望ましい。しかし、住民の要求が優先されるために「花みずき」が増えることになってしまった。住民といえば、落ち葉の掃除をいやがる苦情によって桜の枝が異常に短く切られているところが多い。この辺を住民の方々にはよく考えてもらいたい。

松田さんの講演は途中で質疑応答もまじえて進められました。今後の会の運営にとっても、住民の意識のもち

方についても教訓に満ちたものでした。

近藤さんは建築設計の経験もふまえて次のような感想を述べています。

「最近では日本中がリトル・トウキョウ化している。全国的に似たようなあてがいぶちの住宅が建てられ地域の特色が消えてゆく。自分の家を建てるときに「向こう三軒両隣」に関心を持ってば街も変えられる。自分たちの街に自分の家をという考えで建ててもらいたい。最近ではマンションがどんどん入ってきて街を変えている。街並みを壊されないように積極的に働きかければ街並みをまもることができる。最近の経験だが、マンション建設にさいし交渉を持った。その結果大きな樹を残して、五階建てから三階建てにし、建物を道路からさがってもらう要望などを実現した。住民が買い物にでかけるにしても、歩くことの楽しさを味わえる、そんな生活空間や街並みをつくりたい」と第一部を締めくくりました。

第二部：色部さんのお話

奥沢で育った85歳になる色部さんからは、長い間見つけてきた奥沢地域の思い出について語っていただきました。

「大正12年の関東大震災のあと、父親がドイツから帰ってきて昭和2年に奥沢の最北端に住んだ（現在の二丁目45）。家には畳がなくベッドとテーブルの生活だった。付近には家はまばらで小川が流れメダカやザリガニがいた。

その後、アメリカ帰りの人が家を建てて、洋風の家が5軒ほどになった。正月には近くの人が集まって百人一首で遊んだり、ダンスをしたりしてとても賑やかで楽しいものだった。海軍住宅の人との交流もあった。ドイツ風の家が建っているというのが話題となって「ドイツ村」と呼ばれたとドイツ村の由来が紹介されました。

第三部：質疑応答と感想

つづいて出席者のみなさんから質問や意見を出していただきました。講演者の松田さんをかこんで自由討論が交わされ、いっそう理解が深められたと思います。最後に、出席者全員から感想を述べていただきました。

三浦さん：戦後まもなく奥沢に嫁いで来た。畳の部屋は一間しかなくて、その他の部屋の床はコルクか板張りだった。障子がなくガラス戸だったので張り替えもなく楽をさせてもらった。棕櫚が三本あるのは両親と夫の三人を意味していた。

毛利さん：家を建て替える時に、古いものをすべて捨てる事には抵抗があった。できるだけ伝統を大切にしながら新しいものも取り入れるように考えた。井戸もつぶしてはいけないと、ここから水を取る配管工事をした。庭石や樹齢120年の榎の樹も残してある。

市橋さん：15年ほど前に家を建てるときは隣近所とのバランスなどは考えないで建ててしまった。娘がサンフランシスコにいたので行って見て驚いた。家を建てるときには、道路からの距離や周りの建物との調和にさまざまな規制がある。庭の花に霜除けのビニールシートをか

けたときには娘から「暗くなってからにしてほしい」と注意された。住民が街全体の景観を考えている。こうして美しい街をつくっている。

近藤さん：日本人には自分たちで考えて良くしようと考える方が不足している。お上からの規制がないとやらない。それでも違反する人が多い。欧米では、住民たちの話し合いの中で自分たちで規則をつくり決めたことはきちんと守って行く。少しぐらいのことではあきらめないねばり強さがある。

松田さん：大切なことは、道路などのお金のかかるものは政治の手を借りるとしても、自分たちで出来ることはやらなければならない。成城では「街路樹の落ち葉掃除は隣の家の半分までやる」という了解がある。こうして地域社会をつくっている。

色部さん：田園調布では石垣を造らずに垣根や植え込みにしているときが？

松田さん：田園調布の街づくりは、田園都市会社の都市計画に基づいて放射状につくられている。成城では「街をつくるのは住民だ」との意識で街づくりを進めている。

近藤さん：田園調布の設計は英国のE・ハワード氏による田園都市計画を参考にしたものだが、西欧では敷地が広いので塀を作らない。田園調布も建築協定を作った。西欧の市民は都市や街は市民全体のものであるという感情を強くもっている。

平野さん：奥沢地域にも建築協定を作った拘束する方法もある。しかし、もう少しゆるやかな方法で「みんなだめぞ街づくり憲章」のようなものがないか。住民が連帯して「こういう街に住みたい」というアイデアを持ち寄って街づくりを進めようと考えている。その中から街の景観も生まれてくると思う。また現在、お年寄りだけの世帯が多くなっているが、住民が支え合っていける街づくりにもつながってゆくと思う。

堀内さん：昨年初代の会長をした。この会が発足したキッカケは近所に「違法建築」が出来たことだった。区役所に頼んでも「違法建築」の赤紙を貼るところまでで、それ以上の力にはならなかった。しかし、この事件を通じていろいろな可能性が見えてきた。費用もあまりかからずに実現可能な「地域のこだわり」を探したい。パンフレットや街角の看板で街づくりの考え方を示したりすると、建築業者も注意を払う。住民の力で改善できる方法が必ずあるように思う。海軍村やドイツ村という個性のある街があったし、豊かな緑をいかに継承していくか、いっしょに考えてみたい。

色部さん：建蔽率や日照権もどんどん侵されている。近所には一軒の敷地だったところに7軒も建った。区で認めているのか？

近藤さん：建築業者の申請は法律どおりにして実際は違法住宅を建てている。役所は違法と判断しても、強制的に行政処分ですとところまではやらない。土地の細分化で庭木を植える余地もなくなる。だから現在ある木を残してもらう運動も大切だ。マンションの建設やミニ開発で住環境が損なわれないようにこの会も活動をしてい

くことが必要だ。

松田さん：緑が減っていくことや、住宅地が細分化されていくのは時代の趨勢でこれを防ごうとしても無理である。緑がなくなっても良い街並みはつくれる。ヨーロッパの街並みをみればわかるように個人個人の住宅には緑はないが街に緑があふれている。どのような街並みが良いのかの価値の尺度は時代とともに変わってゆくことから、個々の住宅に緑がなくなっても「緑ゆたかな街並み」という理想があれば緑はなくなる。肝心なことは、住民が強い意志をもってこの理想を守る事である。

近藤さん：土地の細分化や緑が無くなることは良くないと思う。厳しい流れの中でも努力と工夫で良い住環境は残せる。この会では都市における自然を大切にしたい。

松田さん：誰もが緑を守りたいと思っているが、それが守られていないのが現状である。個々人の家が頑張ってもせいぜい緑の減りかたがゆるやかになるというのが実状ではなかろうか。住民の大多数の賛同を得て、奥沢2丁目を二階建ての個人住宅の集合地から集合住宅にタウン化できれば、空き地も沢山生まれ緑も守れる。

この他にもいろいろな貴重な御意見がのべられました。が紙面の都合で割愛させていただきます。

会からのお知らせ

- 秋のつどいは10月28日(土)に「まちなみウォッチングー奥沢2丁目を歩く」を計画しています。私たちのまちを実際に見て再認識し、これからのまちの形を考えたいと思います。詳しくはチラシ(若草色)でお知らせします。
 - 月に1回、定例会を開いています。どなたでもお気軽にご参加ください。
 - 会では、活動とともに運営していくメンバーを常時募集しています。得意分野を役立てたい、というのも大歓迎。どんなささやかなことでも、まずはご一報を!
 - 各欄への投稿記事を募っています。ご面倒な方には、こちらからインタビューに伺います。カット・イラストも大歓迎。
- また、記事に関するご感想・ご意見をお聞かせください。

会からの報告

シンボルフラワー募集!の記事を読まれて、ブルーデージーはどうかと提案がありました。たくさん咲いて美しいという理由です。皆様もどうぞご意見をお寄せください。奥沢2丁目共通の花で彩られる日を夢見ています。



こんなご意見がありました

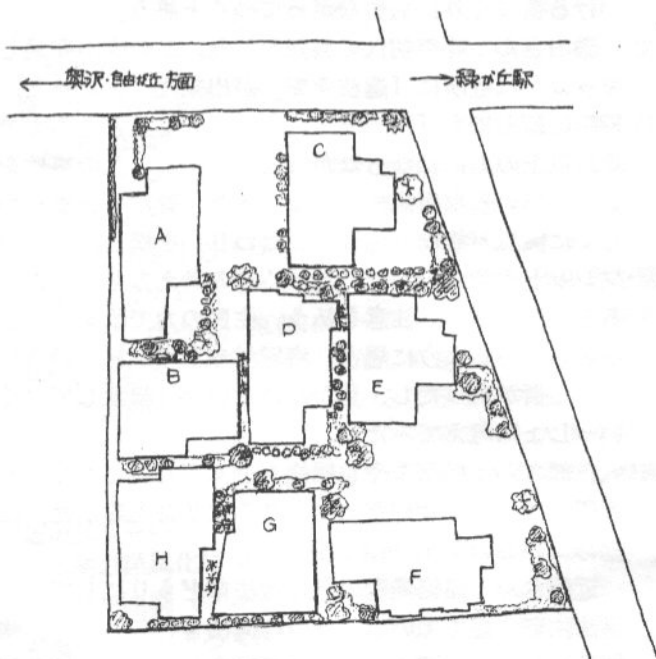
第1号「庭木のケア」の記事で、アブラムシなどはすぐ駆除するようにと掲載しましたが、「イモムシは少しの間辛抱してやれば、やがて美しい蝶になるのだから駆除の仲間にいけないでください」とご指摘がありました。まちの緑を考えるうえで、人間の都合で「害虫」呼ばわりしてしまう前に、虫の生態や自然のなりたちを理解しようとする気持ちが必要なのかも知れません。イモムシさん、ごめんなさい。



土地の動き情報

奥沢2-23の松岡邸跡は、下の図のように住宅が8棟建ちます。

カツラ・ミモザなどの高木や、オリーブ・マンサク・レモンなどの木が植えられる予定です。



編集後記

第1号を発行後に、いろいろのご感想やお尋ねをいただきありがとうございます。このささやかなニュースレターが2丁目の皆様をつなぐ絆になるようにがんばります。なお、特集記事のために、奥沢今と昔・グリーンサムのお庭拝見他の記事はお休みにしました。次号をお楽しみに。

土とみどりを守る会 連絡先

奥沢2-19-9	長瀬雅義	5729-0126
奥沢2-41-2	柳島尚子	3718-8558